

エッセイ

「星野富弘先生への感謝」

群馬大学学長 平塚 浩士

もう30年以上も前のことですが、私は館林の実家の近くで開催された富弘先生の詩画展に赴きました。そこで1979年の作品である「ペンペン草」や「つばき」などに出会い、胸が熱くなる感動を覚え、生きる勇気を与えていただきました。それ以来、先生を尊敬しております。その後、富弘美術館開館25周年記念式典の時や群馬大学基金の返礼品の事でご自宅にお願いに上がった時に先生とお話させていただきましたが、いつも笑顔で対応していただき、心の強い優しい方であることを実感しました。

富弘先生は群馬大学の教育学部を卒業後、高崎市の中学校で教鞭をとられていましたが、クラブ活動の指導中に頸髄を損傷し、手足の自由を失って、本学の附属病院で9年を越える入院生活を送られました。入院中にお見舞いの手紙に返事を書きたくて筆を口にくわえて文字を書き始めたのですが、余白に絵を描くことにより先生独自の「詩画」の世界を拓かれ、感動と生きる力を与える数多くの作品を生みだし、「詩画」に触れた方々から敬愛される存在となっております。

群馬大学では富弘先生のような高い功績を称え、2011年に本学初の特別栄誉賞をお贈りしています。先生に本学での作品の展示や活用をお願いしたところ、「母校のためならば」と快諾していただき、現在、作品は附属病院の憩いの広場「尾瀬」に

「星野富弘・花の詩画コーナー」として展示させていただいています。また最近、本学では「学生の修学支援や重粒子線がん治療などのための基金」に寄付を募っていますが、返礼の品として先生の詩画作品を使用したテーブルセンターなどをお贈りしたところ、寄付者の方々から好評を博しています。

このように富弘先生は多くの人に感動と生きる力を与えている特別な存在であり、本学や私たちにとってかけがえのない方です。富弘先生に感謝申し上げ、先生の益々のご健勝とご活躍、そして富弘美術館のご発展をお祈りして筆をおきます。



平塚 浩士 (ひらつか ひろし)

[プロフィール]

1945年生まれ。群馬県館林市出身。群馬大学工学部卒。東京工業大大学院博士課程修了(理学博士)。

群馬大学教授、副学長などを経て、2015年から学長。